

施設における看取りの現状 と課題

特別養護老人ホーム 芦花ホーム



施設介護事業部門長
日高 聡

施設の概要

- ・平成7年5月 区立特別養護老人ホームとしてオープン
- ・平成30年 大規模改修工事のため休館
- ・令和元年5月 再オープン
- ・特養：107名、ショートステイ：17名
- ・職員数（介護職員55.1名 看護師10名）
- ・入所者（平均介護度4.1 平均年齢87.1歳）

併設事業所

デイサービス、ホームヘルプサービス
訪問看護、居宅介護支援事業所



看取りの割合の変化

あゆみ（小票分析をふまえて）

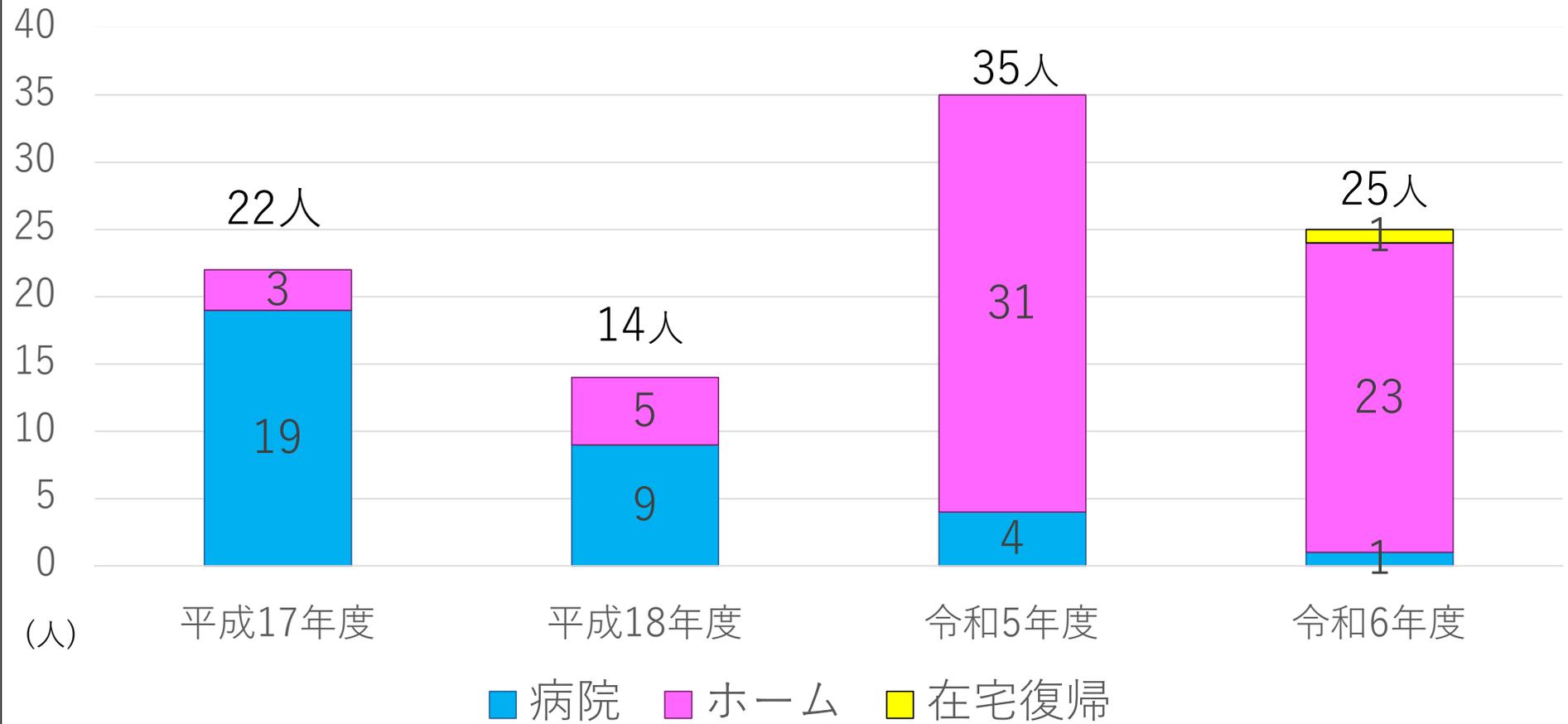
○平成20年：8割が病院での看取り

○令和 4年：病院看取りが6割を切り、在宅、特養へ移行
▶死亡場所が特養が在宅を超える。

○特養での看取りの増加（63.69%）※令和5年度加算取得ベース
▶施設の増加に伴う定員増や、看取りを行う施設の増加

○平成18年度～ 芦花ホームでの看取り開始【重度化対応加算】

芦花ホームでの看取り割合の変化



※令和6年度は令和7年1月現在

看取りの現状

芦花ホームにおける看取りの現状

- ・ 事前訪問面接～入所当日、予兆期～終末期
 - 「意志確認書」の説明と確認
 - 「看取りのしおり」の説明

芦花ホーム ご利用者・ご家族様 意志確認書

特別養護老人ホームという当施設の役割上、入所中に人生の終焉が迫る事態が考えられます。当ホームを「終の棲家」と承知されている前提でお尋ねします。

1. 入所後の日常の医療（内服等）に関して

- イ. 当ホームの判断、医療に任せる
- ロ. かかりつけ医の医療を、これまで通り継続する。
※原則、ご家族様に通院を含めご対応いただきます。

2. 急変時を含めて最期の医療に関して

- イ. 当ホームの判断、医療に任せる。
- ロ. 医療機関への搬送を希望する。

意志確認書

看取りに向けて
～最期までその人らしく～



看取りのしおり

芦花ホームにおける看取りの現状

- ・ 看取りの導入
ACPの実際（入所時→繰り返しの面談→見直し）

多職種でのケアカンファレンスの様子



家族面談の様子



看取りの考え方

看取りになったので何か特別なことをしよう

ではなく・・・



今までの**生活の延長線**上に看取りがある



看取り期の援助の基本的な考え方

これまで生きてきた個人の歴史を尊重する

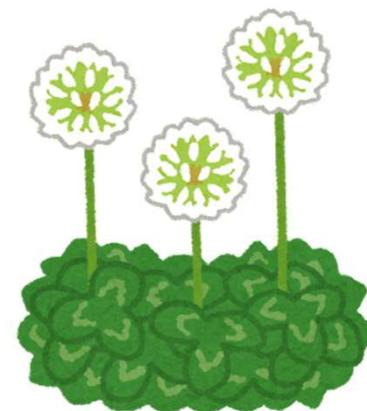
終末期であっても、生活の延長線上にある看取りの支援である

ことを意識し、可能な限りいままでの生活を維持していく

介護の基本である「**自立支援**」の意識を常に持ち続け、

本人が選択した希望、本人が選択するであろう希望を

家族などから聞き取りかなえていく



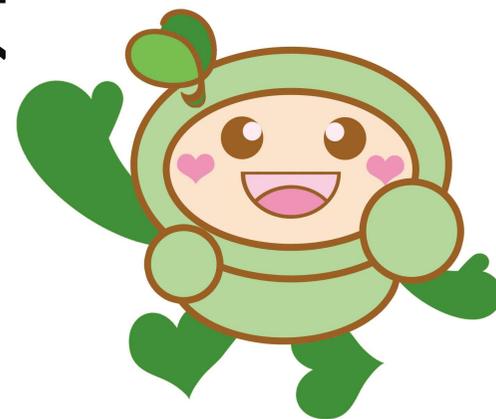
芦花ホームの看取り介護とは

芦花ホームの使命

「その人らしく最期まで生きられる社会の実現」

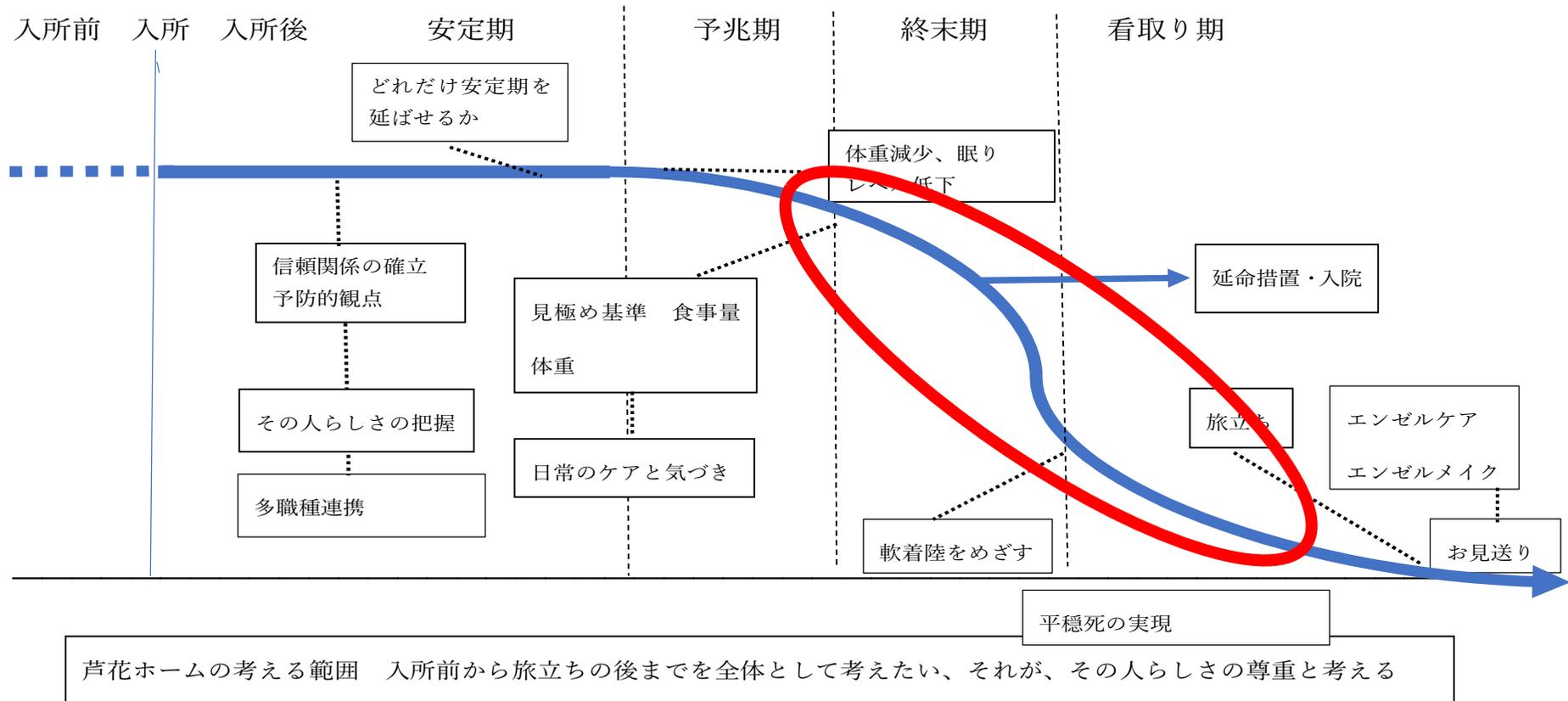
芦花ホームの看取り介護

ご利用者様が、人生の終焉を迎えた時に、ご本人及びご家族等の意向を尊重したケアを実施することで安らげる生活の場を提供し、自然な状態のまま残された余命を平穏に過ごしていただくこと



故 石飛幸三 常勤医

施設で看取り介護と言われる時期



ケアの現状

環境整備

ご家族と気兼ねなく一緒に過ごしていただけるように、居室変更を行う。

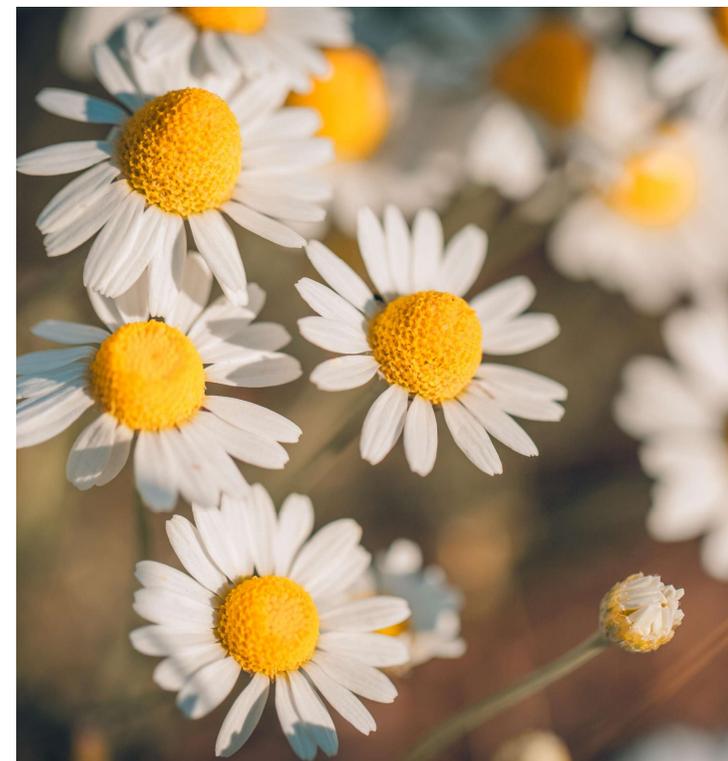
愛着のあるものや写真を飾るなど、落ち着いた雰囲気でご過ごせるよう配慮する。

本人の好みを優先すること。



食事ケア

- ・栄養量よりも、本人の食べたいもの、好きなものを優先する。
- ・窒息、誤嚥予防のために、本人の嚥下状況に合わせた食形態、食事姿勢、介助方法について検討する。
- ・嚥下が難しい場合は味覚刺激で好きな味を、味わっていただく。





入浴介助 排泄介助

本人が望むのであれば、本人に苦痛がない限り
入浴できるよう取り組んで行く。

尊厳の保持ををはかりながら、身体の状態の把握に努める。



口腔ケア

看取り期に口腔ケアが必要な意味

※口の中のうるおいは心のうるおい

- ・ 口腔内の清潔が感染予防にも繋がる
- ・ 保湿は重要！！（水分摂取の減少・開口による水分の蒸発）

口腔内が乾燥するとのども乾燥

逆に口腔内の保湿がのどの保湿にもなり呼吸しやすくなる

痛みの軽減にもつながる

口腔ケア時の出血を防げる

- ・ ご家族がきれいなお口をみる事で安心に繋がる





姿勢作り

看取り期における姿勢作りの意義

- ◆ 身体面：褥瘡予防、心肺機能の負担軽減、苦痛の緩和
- ◆ 心理面：尊厳の保持、家族の安心感

⇒ 本人・ご家族にとって心地のよい時間を作る支援



芦花ホームで最期を
迎えられて良かった……！

看取り期のケアのまとめ



1. 環境整備、食事、入浴、排泄の各場面で本人の好みや身体状況への配慮が必要
2. 口腔乾燥や固い痰の改善には**生理食塩水や泡の歯磨き剤の活用**が有効
3. **褥瘡や苦痛の緩和、呼吸改善には姿勢作り**が効果的

⇒ **その人らしく最期まで生きる支援と、ご家族に安心感を提供するケア**

ご家族への支援

遠方や高齢なご家族への配慮

- 家族宿泊

家族宿泊室の利用、もしくは居室内での宿泊も可



常勤医師による安心の体制

- 常勤医の配置

24時間連絡体制OK

看取り契約が取れているご利用者 3名 (R7.2.1現在)
医師への夜間報告はせず、朝報告、死亡診断
(ご家族の夜間来訪の負担軽減)

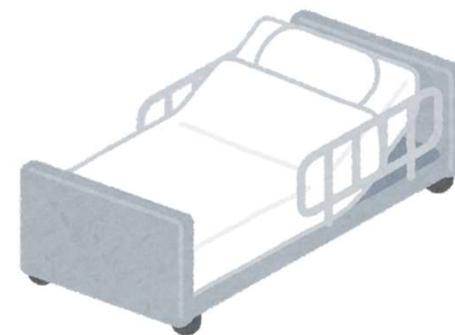
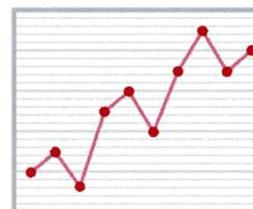
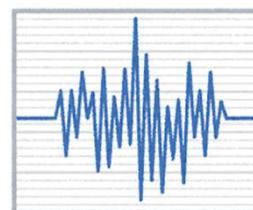


不安の解消への配慮

- ICTの活用

眠りスキャンによる心拍の把握

▶ご家族への情報提供



旅立たれた後の安心

- エンゼルケア・メイク
 - ご家族と共に行うエンゼルケア
 - 看護師によるエンゼルメイク専門講座の受講、施設内研修の実施



エンゼルメイクセット



旅立ち・お別れするとき

- お見送り

コンセプト「**芦花ホームを出るまでが芦花の人**」
ホームを出発されるまで、職員でお見送りを実施する



私たちの課題

私たちの課題

- 若い、経験の浅い職員も多い

入職間もない、若い職員も少なくない

私たちの課題

- コロナ禍の影響
 - 看取りケアを含めたケアスキルの継承
 - ご家族との細やかな関わり



私たちの課題

- コロナ禍の影響
 - 看取りケアを含めたケアスキルの継承
 - コロナ、インフルを含めた感染症の流行
 - 職員の罹患→業務負荷増→職員の負担感増、離職
 - 新入職員や派遣職員、外国人職員の増加
 - 職員研修の中断、オンライン研修の限界（技術系は特に）



**主任・リーダー層が持つ高い
ケアスキルを伝えていけない**

私たちの課題

- 継承したいケアスキルとは・・・
 - 身体状況が悪化してきている時の予兆のとらえ方
(傾眠時間の増加や食事摂取量低下等いつもと違う様子)
 - 看取りケア時の基本的ケア
(食事・排泄・入浴の本人の身体状況に合ったケア方法)

私たちの課題

- ・ コロナ禍の影響

- ・ ご家族との細やかな関わりの変化…

- ・ ご家族とご利用者の面会機会の減少
- ・ FACE to FACEでのご家族への情報提供機会の減少



- ・ ご家族の希望・要望がキャッチしにくい
- ・ 職員とご家族との、ご本人の身体状況の認識のずれ

ご家族からの苦情・クレーム

私たちの課題

- 課題への取り組み
 - ご家族面会の再開：ご家族との情報共有・交流の増加
 - 対面研修の再開：職員のケアスキル向上・職員間交流促進



看取りを含めたケアスキルの再構築へ

施設での最期を選択していただいたことへの責任

利用者本人へのケア

- ◆ 快適さと尊厳の保持、不安や孤独感の緩和

ご家族に安心感を提供するケア

- ◆ ご家族とのコミュニケーションの促進（会話、表情）
- ◆ 介助時の声かけや触れ方を“魅せていく” ⇒



芦花ホームで看取れて
良かった！

ケアの振り返り (偲びのカンファレンス)

偲びのカンファレンス									
利用者の看取りケアについて、これまで実施してきたケアを見直すうえで心がけてきたことを改めて考えるために、以下の視点について話し合い、見直し、今後のケアのあり方につなげていくことを目的とする。									
氏名	様	逝去日	令和	年	月	日	利用者担当		
		評価項目	カンファレンスでの意見						
1	ご利用者との関わりの中で感じたことはありますか？								
2	ご家族との関わりの中で感じたことはありますか？								
3	職員間・職種間の連携について感じたことはありますか？								
4	エンゼルケアを行って(気付いたこと、困った事、引継ぎたい事等)感じたことはありましたか？								
								エンゼルケア実施者	
								介護職員	
								看護職員	
その他、エピソード等を自由に記載してください。									
								偲びのカンファレンス実施日	
								平成 年 月 日 ()	

ご清聴ありがとうございました

